

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	国語表現	単位数	2	対象学年・組	4年A組（選択者）
使用教科書・教材	『国語表現改訂版』（教育出版）		教科担当者名	薬師咲子	

学習目標	①漢字や語彙、敬語など基礎・基本的な国語の知識を身につける ②具体例や根拠を挙げて自分の考えを文章で表現する力を身につける ③実用的な文章の読み方・書き方を理解する
------	--

学期	月	指 導 内 容	予 定 時 数
一学期	4	文章表現の基礎「表記の仕方」（仮名遣い、送り仮名）	6
	5	待遇表現「敬語によるコミュニケーション」（敬語使用の練習）	8
	6	言葉のマナーと一般常識（忌み言葉と冠婚葬祭） 口語文法（「ら抜き」ことば、「さ入れ」ことば、「れ足す」ことば）	8
	7	実用的な文章を書く （招待状の返信、手紙・電子メールの書き方と送り方）	4
二学期	9	実用的な文章を書く 履歴書、FAX送信状、案内状の書き方	8
	10	社会生活・日常生活に役立つ国語常識 （電話の応対、ことわざ、格言、慣用句、物の数え方）	8
	11	作文と小論文の違い 小論文の構成	6
	12	社会生活・日常生活に役立つ国語常識 （二十四節季、十干十二支、六曜、年賀状・寒中見舞いの書き方と送り方）	4
三学期	1	メディア・リテラシー 実用的な文章を読む（新聞記事の読み比べ）	6
	2		
	3		

評価の観点・方法	次の3点について総合的に判断し、評価を行う。 ①出席状況、②授業中の取り組みおよび提出物（授業確認シート）、③定期考査の得点 ※臨時休業となった場合には、課題の取り組み状況も評価に加える。
----------	--

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	古典A	単位数	2	対象学年・組	4年A組（選択者）
使用教科書・教材	『古典A物語選改訂版』（大修館書店）		教科担当者名	薬師咲子	

学習目標	①古典文学作品の鑑賞を通して、日本の言語文化について知識・関心を深める。 ②古典の世界における人々の生き方や価値観に触れ、現代の社会における生き方や常識、価値観について考察する視点をもつ。
------	---

学期	月	指 導 内 容	予 定 時 数
一学期	4	説話『宇治拾遺物語』より「小野篁広才のこと」「検非違使忠明のこと」	6
	5	和歌の修辞 説話『十訓抄』より「大江山いくのの道」 日記『和泉式部日記』より「薫る香に」	8
	6	日記『蜻蛉日記』より「町の小路の女」 歌物語『伊勢物語』より「初冠」、「月やあらぬ」	8
	7	歌物語『大和物語』より「をばすて」	4
二学期	9	故事・逸話『韓非子』より「不死の薬」 史伝『史記』より「鴻門の会」	8
	10	史伝『史記』より「項王の最期」 軍記物語『平家物語』より「忠度都落ち」	8
	11	軍記物語『平家物語』より「能登殿最期」 歴史物語『大鏡』より「道真左遷」	6
	12	物語『源氏物語』より「光源氏の誕生」	4
三学期	1	物語『源氏物語』より「葵」、「須磨」	6
	2		
	3		

評価の観点・方法	次の3点について総合的に判断し、評価を行う。 ①出席状況、②授業中の取り組みおよび提出物（授業確認シート）、③定期考査の得点 ※臨時休業となった場合には、課題の取り組み状況も評価に加える。
----------	--

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	公民・現代社会	単位数	2	対象学年・組	4年A組
使用教科書・教材	高等学校 新現代社会（帝国書院）		教科担当者名	川田 真一	

学習目標	青年期の課題や日本の政治・経済について学習することを通して、生徒一人一人の進路選択やキャリア形成に役立てる
------	---

学期	月	指導内容	予定時数
一学期	4	現代社会の諸課題 現代社会とは 私たちと環境問題	6
	5	高度情報社会の課題（SNSの利用について） 新聞などの情報源の活用と著作権について	8
	6	現代の社会と自己実現 青年期の課題	8
	7	社会参画について 進路について（キャリア教育の視点）	6
二学期	9	現代の経済と国民の福祉 労働問題	8
	10	経済活動と市場経済 企業の役割	8
	11	財政と日本の社会保障 現代の国際社会 グローバル化と貿易自由化 農業と食料問題（食育の視点）	8
	12	日本の政治機構と政治参加 日本国憲法と国民主権と基本的人権の尊重 日本の選挙制度（主権者教育の視点）	6
三学期	1	よく生きるとは 生きることについて考える（哲学と宗教） 日本の伝統と文化（富士山と和食と茶道）	6
	2		6
	3	課題学習（図書館における調べ学習）	4
評価の観点・方法		① 授業の出欠状況と学習への取り組み ② プリント・ノートなどの提出 ③ 定期テストの成績 以上の3点を総合的に判断して評価	

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	数学 I	単位数	2	対象学年・組	4年 A組
使用教科書・教材	数研出版 新高校の数学 I		教科担当者名	森 直人	

学習目標	数学 I のテーマの中で確実な計算力を身につける。
------	---------------------------

学期	月	指 導 内 容	予定時数
一学期	4	これまでの復習	3
	5	整数の四則演算	5
	6	分数の四則演算	7
	7	実数についての説明と計算練習	3
二学期	9	平方根とその計算についての説明と計算練習	6
	10	不等式とその計算についての説明と計算練習	6
	11	鋭角の三角比	6
	12	三角比の相互関係	4
三学期	1	三角比の利用(1)	6
	2	三角比の利用(2)	4
	3	まとめ	4

評価の観点・方法	基礎学力に重点をおいて、確実な計算力の育成を図り、数学的な考え方を視覚的に扱う。定期考査や授業への取り組みを評価する。
----------	---

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	物理基礎	単位数	2単位	対象学年・組	4年A組
使用教科書・教材	新編 物理基礎		教科担当	角皆 充希	

学習目標	物理的な事物・現象に対する探究心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を育てるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な自然観を育成する。
------	--

学期	月	指導内容	予定時数
一学期	4	物理量と測定・物体の運動	6
	5	落体の運動	8
	6	力と運動	8
	7	運動の法則	6
二学期	9	運動とエネルギー	6
	10	熱とエネルギー	6
	11	波とエネルギー	8
	12	音波とその性質	6
三学期	1	電気とエネルギー	6
	2	まとめと演習	6
	3	まとめと演習	4

評価の観点・方法	<p>①授業は、授業プリントに沿って進める。</p> <p>②定期考査は、原則として授業プリントと実験・実習レポートから出題する。赤点は、平均点の1/2未満とする。</p> <p>③定期考査と実験・実習レポートに加え、出席状況・授業への取り組み等をふまえ、総合的に評価を行う。</p>
----------	--

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	化学基礎	単位数	2単位	対象学年・組	4年A組（選択者）
使用教科書・教材	新編 化学基礎	東京書籍		教科担当	角皆 充希

学習目標	身近な事物・現象に関する観察、実験などを通して理解させる。 化学的な見方や考え方を養うとともに、化学に対する興味・関心を高める。
------	---

学期	月	指導内容	予定時数
一学期	4	原子量・分子量・式量	6
	5	物質量／溶液の濃度	8
	6	化学反応式とその量的関係	8
	7	酸と塩基	6
二学期	9	水素イオン濃度と pH	6
	10	中和反応と塩／中和滴定	6
	11	酸化と還元	8
	12	酸化剤と還元剤／金属の酸化還元反応	6
三学期	1	酸化還元反応の応用	6
	2	探究	6
	3	探究	4

評価の観点・方法	<p>①授業は、授業プリントに沿って進める。</p> <p>②定期考査は、原則として授業プリントと実験・実習レポートから出題する。赤点は、平均点の 1/2 または 30 点未満とする。定期考査はレポート提出に替える場合がある。</p> <p>③定期考査と実験・実習レポートに加え、出席状況・授業への取り組み等をふまえ、総合的に評価を行う。</p>
----------	---

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	保健体育・体育	単位数	2	対象学年・組	4年A組
使用教科書・教材	最新高等保健体育 改訂版		教科担当者名	尾高英樹、都竹もみの	

学習目標	<ul style="list-style-type: none"> 各個人が役割を認識して準備・片付けなど仕事を分担し、全員が授業に参加する態度・姿勢を養う。 各種目に応じて、運動の合理的な実践を通じ、安全に留意して運動特性を学ぶ。 身体を動かす楽しさを知り、生涯を通して運動を行う意識を高める。 公正、協力、責任、参画などに対する意欲を高める。
------	--

学期	月	指 導 内 容	予定時数
一学期	4	<ul style="list-style-type: none"> 卓球 【目標】・自ら準備や片づけを行い、積極的に授業に参加する ・安定した用具の操作や状況に応じたラケットの操作を身に着ける 	6
	5	<ul style="list-style-type: none"> 体づくり運動（体力テストに向け実施） 【目標】・各種目特有の技能を高め、記録の向上に楽しさや喜びを味わう 	6
	6	<ul style="list-style-type: none"> 体力測定（体力テストに向け、体をほぐす運動および、体力を高める運動を実施） テニス・バドミントン 【目標】・自ら準備や片づけを行い、積極的に授業に参加する 	6
	7	<ul style="list-style-type: none"> 状況に応じたラケット操作を身に着ける 練習、ゲームを通じて個人、ペアの反省を見つけ、次回の課題は何かを考える。 体育理論（オリパラ教育） 	8 3
二学期	9	<ul style="list-style-type: none"> バレーボール 【目標】・自己の役割を認識して、積極的に準備・片づけを行う ・安定したボールの操作を身に着ける 	8
	10	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力し、チームの一員としての責任の意識をもつ バスケットボール 【目標】・バレーボールに同じ 	3
	11	<ul style="list-style-type: none"> アルティメット（グループ学習） 【目標】・主体的に、準備、片づけを分担し、授業に参加する ・安定したディスク操作により、パス、キャッチを行う 	8
三学期	1	<ul style="list-style-type: none"> 仲間と協力し、チームの一員としての責任の意識をもつ 体づくり運動（持久走等、体力を高める運動） 【目標】・健康の保持増進や調和のとれた体力の向上を図る 	8
	2	<ul style="list-style-type: none"> タグラグビー 【目標】・主体的に、準備、片づけを分担し、授業に参加する ・安定したディスク操作により、パス、キャッチを行う 仲間と協力し、チームの一員としての責任の意識をもつ 	2
			2

評価の観点・方法	<ul style="list-style-type: none"> 授業への参加を重視して評価を行う為、出席を重点に置く。休まず参加することが前提 授業に対する取り組み姿勢、ジャージへの着替え・靴の履き替えも重視する。 実技教科の為、特に欠席時数の許容欠席時数オーバーには注意を要する。 授業への遅刻・早退・見学も欠席時数に加算するため、注意する。 運動技能に加え授業出席・授業態度等を平常点として加味して評価する 体育理論やグループ学習における提出物の状況や内容を評価の対象とする。
----------	---

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	芸術・美術Ⅱ	単位数	2	対象学年・組	4年選択者
使用教科書・教材	美術2 日本文教出版		教科担当者名	橋岡 昭男	

学習目標	工芸の授業を通じ、生活の中で使用するものの理解を深める。 授業を通じて、物づくりノ楽しさを味わう。 手順を考えて、制作する態度を育む。
------	---

学期	月	指 導 内 容	予定時数
一学期	4	教科書の説明 ペーパーナイフの下地作り。	6
	5	真鍮ペーパーナイフの切り出し。	8
	6	なめらかな形に金工やすりで整形。	8
	7	刀付け 荒いかみやすりで全体をやする。	6
二学期	9	細かいかみやすりで引き続きやする。 ピカールで全体を磨き上げる。	6
	10	ティッシュボックスの下地作り 五面すべて考える。	6
	11	浮彫りに対しての線彫り。	8
	12	三角刀で本体を彫り、バックを彫り下げる。	6
三学期	1	丸彫り・平彫りの使い方。	6
	2	紙やすりで磨き上げる。	6
	3	着彩—仕上げ。	4

評価の観点・方法	計画性を持ち、長い制作過程への持続力と制作力に対する理解力。
----------	--------------------------------

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	芸術・書道Ⅱ	単位数	2	対象学年・組	4年選択者
使用教科書・教材	書道Ⅱ 東京書籍		教科担当者名	金澤 容子	

学習目標	各自の力量で毛筆、硬筆ともに学んでいく。隷書、篆刻についても学習する
------	------------------------------------

学期	月	指 導 内 容	予 定 時 数
一学期	4	硬筆 楷書の学習	6
	5	毛筆、漢字かな交じりの書の学習	8
	6	毛筆 千字文の学習	8
	7	硬筆 小色紙作品	6
二学期	9	篆刻の学習	6
	10	篆刻の学習	6
	11	毛筆 隷書の学習	8
	12	硬筆 表書きの書について	6
三学期	1	毛筆 かなの学習	6
	2	毛筆 細字の学習	6
	3	硬筆 行書の学習	4

評価の観点・方法	提出物、出席重視。授業中での取り組み方、授業中の態度、忘れ物
----------	--------------------------------

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	外国語・コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	2	対象学年・組	4年A組
使用教科書・教材	VISTA English Communication Ⅱ		教科担当者名	箕輪 潤	

学習目標	<p>基礎的な語彙及び文法を習得する。 教科書本文の内容を理解して、音読する。 習得事項を活用しようとする意欲を育む。</p>
------	---

学期	月	指 導 内 容	予定時数
一学期	4	教科書第6課 <how to do・It seems that ～.>	5
	5	教科書第6課 <how to do・It seems that ～.>	6
	6	教科書第7課 <現在完了進行形・形式目的語 it>	8
	7	一学期の復習	2
二学期	9	教科書第8課 <部分否定・can be done>	7
	10	教科書第8課 <部分否定・can be done> 教科書第9課 <関係代名詞の非制限用法・have been done>	6
	11	教科書第9課 <関係代名詞の非制限用法・have been done>	8
	12	二学期の復習	4
三学期	1	教科書第10課 <過去完了形・強調構文>	4
	2		
	3		

評価の観点・方法	定期考査、授業への参加、英語への関心・意欲・態度等を参考に総合的に評価する。
----------	--

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	外国語・英語会話	単位数	2	対象学年・組	4年A組（選択者）
使用教科書・教材	SELECT English conversation		教科担当者名	箕輪 潤	

学習目標	英語のフレーズを覚える。 知っているフレーズを使おうとする態度や意欲を涵養する。
------	---

学期	月	指 導 内 容	予 定 時 数
一学期	4	第一課 興味のあるものを言う 未来表現・不定詞	6
	5	第二課 余暇について話す 現在形・過去形	8
	6	第三課 体調について話す 助動詞 should	8
	7	第四課 学校について話す There is/are 一学期の復習	6
二学期	9	第五課 天気や気候について話す 助動詞 will	6
	10	第六課 自分の好みについて話す 同盟し	6
	11	第七課 都合を尋ねる 現在完了 第八課 道を尋ねる SV00	8
	12	第九課 乗り物での行き方を尋ねる How long～？ 二学期の復習	6
三学期	1	第十課 ほしいものを買う 現在進行形/SVC	6
	2	第十一課 食事を注文する 不定詞	2
	3		

評価の観点・方法	定期考査、英語と授業への関心・意欲・態度、提出物等を参考に総合的に評価する。
----------	--

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	家庭総合	単位数	2	対象学年・組	4年選択者
使用教科書・教材	家庭総合 実況出版		教科担当者名	檜山 時恵	

学習目標	食品の栄養価と働きを知り食に対する意識を高める。 調理の技術を身につける。
------	--

学期	月	指導内容	予定時数
一学期	4	食生活の変化と現状 食生活と環境 食物の働き（栄養素と健康）	6
	5	食中毒と食品汚染 食料の生産と輸入（日本の需給率） 食料の流通システムを理解する	8
	6	衣生活と資源 実験 食品添加物と砂糖の関係を 知る 作品作り	8
	7	調理実習 小麦粉とバター の関係 調理実習 だしの扱い方 炭水化物の代謝働きを知る	6
二学期	9	調理実習 米の扱い方（精白米） 歴史文化からリサイクル活用の衣服を 考え、伝統的な模様縫いを学ぶ	6
	10	調理実習 米の扱い方（もち米） 調理実習 小麦粉の扱い方 作品作り	6
	11	作品作り 消費生活と消費者	8
	12	消費生活と情報 行事食とマナーを知る	6
三学期	1	調理計画を立てる	6
	2	食品の期限	6
	3	食品の加工食品・農薬の危険性	4

評価の観点・方法	出欠状況・授業態度・関心・意欲・提出物（プリント・作品） 定期考査
----------	-----------------------------------

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	情報・情報の科学	単位数	2	対象学年・組	4年A組
使用教科書・教材	実教出版 情報の科学		教科担当者名	菊池 信隆	

学習目標	就職・進学後に必須となるPCの基本操作、ソフト（表計算・プレゼンテーション）を将来役立てるための基礎を理解し、合わせて簡単なプログラミングを学習する。
------	---

学期	月	指導内容	予定時数
一学期	4	コンピュータの仕組み パワーポイントソフトの利用（1）	4
	5	情報通信ネットワーク パワーポイントソフトの利用（2） <中間考査>	6
	6	データベース パワーポイントソフトの利用（3）	8
	7	問題解決の考え方と手順 パワーポイントソフト（4）	4
二学期	9	モデル化とシミュレーション	4
	10	処理手順の明確化と自動化 HTMLによるWebページ作成1 <中間考査>	6
	11	社会の情報化と人との関わり HTMLによるWebページ作成2	8
	12	情報社会の安全 VBAの入門学習	4
三学期	1	これからの社会と情報モラル <卒業考査>	4
	2		0
	3		0
※予定は生徒の状況等により変更することがあります			

評価の観点・方法	実習 100点 考査 100点 出席 +30点～△50点 授業態度を考慮します
----------	--

令和5年度年間授業計画（定時制課程）

教科・科目	商業・ビジネス基礎	単位数	2	対象学年・組	4年選択者
使用教科書・教材	ビジネス基礎 実教出版			教科担当者名	菊池 信隆

学習目標	経済のしくみや企業活動について基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、つねに大きく変化する社会の将来を見通す能力を育てる。また、同時に自分に適した職業選択や人生設計の基礎となる知識を身につけさせる。
------	--

学期	月	指 導 内 容	予定時数
一学期	4	第1章 商業の学習ガイダンス	4
	5	第2章 経済と流通の基礎Ⅰ 経済の仕組みとビジネスの学習	6
	6	第2章 経済と流通の基礎Ⅱ 経済活動と流通の学習	6
	7	第3章 ビジネスの担い手Ⅰ 「ものの生産者」の学習	4
二学期	9	第3章 ビジネスの担い手Ⅱ 「小売業者」・「卸売業者」の学習する	4
	10	第3章 ビジネスの担い手Ⅲ 「物流業者」・「金融業者」の学習	6
	11	第4章 企業活動の基礎Ⅰ ビジネスと企業の学習	6
	12	第4章 企業活動の基礎Ⅱ 企業活動と法の学習	4
三学期	1	第5章 ビジネスと売買取引 売買取引の手順と代金決済の学習	4
	2		0
	3		0
※予定は生徒の状況等により変更することもあります			

評価の観点・方法	実習 100点 考査 100点 出席 +30点～△50点 授業態度を考慮します
----------	--

令和5年度「総合的な探究の時間」の全体計画

1 「総合的な探究の時間」の校内での名称（実施学年ごとに記入する）

第1学年『人間と社会』 第2学年『総合（探究）』
第3学年『総合（探究）』 第4学年『人間と社会』

2 学校の教育目標

- ① 学問を愛し、真理を探究する精神を養い、生涯を通し知性の向上に努めさせる。
- ② 情操を養い、明朗で清純な品性と礼節ある態度を培う。
- ③ 正義と平和を愛し、心身ともに健全で実行力のある人間を育成する。
- ④ 個性を伸長し、自主的精神を培うとともに、自己の社会性を自覚させる。

3 各学校において定める「総合的な探究の時間」の目標

- ① 探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通してよりよく課題を発見し解決していくための資質・能力を育成することを目指す。
- ② 学び方や考え方を身に付け、問題の解決や探究活動に創造的に取り組む態度を育て、己の在り方・生き方を考える。

4 生徒・学校・地域の実態

- ① 本校在校生は、義務教育期の不登校経験者が多い。だからこそ学び方やものの考え方を身に付け、主体的創造的に取り組む姿勢やコミュニケーション能力を育みたいと願っている。
- ② 地域・保護者は、本校を丁寧な生活指導を実施する学校と認知し、入学後は心身ともに健康で望ましい生活習慣を育成して欲しいと願っている。

5 指導体制（実施学年ごとに記入する）

- ① 週時程への位置付け方（曜日・校時）及び授業時間数、単位数
 - 1 学年 木曜日・3校時 1 単位時間45分とし、35単位時間
 - 2 学年 木曜日・3校時 1 単位時間45分とし、35単位時間
 - 3 学年 木曜日・3校時 1 単位時間45分とし、35単位時間
 - 4 学年 木曜日・3校時 1 単位時間45分とし、35単位時間
- ② 授業時間確保の方法 特定の期間に集中して実施しない。
- ③ 校内の指導組織
 - 1 学年2人、2 学年1人、3 学年2人、4 学年1人、計6人の専任教員で担当する。
- ④ 学習の評価
 - 1 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
 - 2 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
 - 3 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
 - 4 学年 実社会や実生活と自己との関わりから問いを見出し、自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようになったか。
- ⑤ 評価方法
 - 1 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。
 - 2 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。
 - 3 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。
 - 4 年 出席・意欲・取り組み・レポート・発表など総合的に評価する。

6 育てようとする資質や能力及び態度

- ① 基礎基本を重視し、学び方やものの考え方を習得することを通して社会の状況に応じてその力を活用する。
- ② 横断的探究的学習を通して、自己の在り方生き方を考えることができるようにする。
- ③ 自分で課題を設定し、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

7 内容（学習対象、学習事項）（実施学年ごとに記入する）

- ① 『人間と社会』第1学年
○自ら課題を設定し、それに対し調査・研究を行う横断的・総合的な講座
- ② 『総合（探究）』第2学年
○1学年時に探究した課題を踏まえて、その内容を発展させ調査・研究を行う横断的・総合的な講座
- ③ 『総合（探究）』第3学年
○2学年時に探究した課題を踏まえて、その内容を発展させ調査・研究を行う横断的・総合的な講座
- ④ 『人間と社会』第4学年
人間と社会の学習の意義・ねらいや年間学習計画の確認をする。都立城北中央公園を中心にした「奉仕体験活動」、ネット時代・働くことの意義など本校の生徒に密着したテーマを取り上げ人間と社会について理解を深化させる。
① 学習事項
○興味関心を見出し、進路に応じた課題に取り組み、自ら学び考える資質や能力を育む。

8 学習活動

- ① 第1学年『人間と社会』
自ら課題を設定し、それについて調査・研究を行っていく。また学校近隣の地域と連携した「奉仕体験活動」を実施し人間と社会について理解を深化させる。
- ② 第2、3学年『総合（探究）』
生徒自身が課題を設定し、それについて調査・研究を行っていく。また進路について考えることや、職業について考えるために横断的・総合的な講座に取り組み、自己の在り方・生き方を探究する。
- ③ 第4学年 『人間と社会』
人間と社会の学習の意義・ねらいや年間学習計画の確認をする。都立城北中央公園を中心にした「奉仕体験活動」、ネット時代・働くことの意義など本校の生徒に密着したテーマを取り上げ人間と社会について理解を深化させる。

9 指導方法

協働的な学習の充実を図り、個に応じた指導ができるように少人数構成にしている。

10 各教科等との関連

- ① 各科目・教科との連携を図るために教務部担当者及び副校長を中心に進度・学習内容の連絡会を継続的に実施する。
- ② 定期的に検証を加え授業力向上の校内研修を実施する。

11 外部との連携

- ① 本校ホームページ、Twitter等を活用して地域・保護者に広報し、年間2回の授業参観及び研究協議会を実施する。
- ② 城北中央公園管理センターとの連携を図る。

令和5年度「総合的な探究の時間」の年間授業計画

(4学年)

1 単位時間の時間 (45) 分 『人間と社会』

学期	月	指導項目	指導内容	評価計画	配当時間
1	4	事前指導	人間と社会を学ぶ意義及び基礎的な知識の習得【事前学習】	参加意欲の重視	2
	5	環境保全に関する知識を広げよう	学習活動の企画と諸注意をしたうえで、奉仕活動である地域清掃を行う。清掃地域は、城北中央公園管理センターと協議・協力して実施。		(3)
	6		・奉仕体験活動		(3)
	7		<学校周辺区域の清掃活動> 本校周辺及び都立城北中央公園(花の広場、リンゴ広場、クローバー広場)を中心とした清掃活動を行う。		(3)
2	9	地域との連携を深めよう	第11章 支え合う社会 ・なぜ人は助け合い、支え合うのかについて考える。また、支え合うことの大切さについて考えさせる。	出席・課題への取り組み姿勢重視	3
	10		第13章 地域社会を築く ・地域社会との関りについて自己の活動を振り返る。また地域に関係する人たちが、地域の活動に参加することで地域社会にどのような変化が生まれるのか考える。		3
	11		・奉仕体験活動		2
	12		<学校周辺区域の清掃活動> 本校周辺及び都立城北中央公園(花の広場、リンゴ広場、クローバー広場)を中心とした清掃活動を行う。		(6)
3	1	事後指導	第3章 働くことの意義 ・働くことは、本当に社会に貢献することにつながっているのか。また働くことの意義について考えさせる。	出席・課題への取り組み姿勢重視	4
	2		まとめとレポート作成	レポート記載内容	4
	3				2
配当時間数の合計					35